

# 後援会だより

## ごあいさつ

この度、東日本大震災で被災された方がたには、心よりお見舞い申し上げます。

震災の発生から半年が過ぎようとしております。前期試験も終わり、学生たちは落ち着いてそれぞれの夏休みを過ごしているようです。

本年度当後援会では、通常の学生支援に加え130万円の義援金を準備し、被災した学生の就学を支援するために使わせて頂くことにいたしましたこと、ご報告いたします。

ご存知のように、ここ福島では放射線量低減が喫緊の

## 共生システム理工学類後援会 役員一同

課題です。県外では、福島県・福島市の詳細な情報が得られず、安全・健康に疑問をお持ちの方々もおられると思います。市内では既に除染モデル事業を始めており、大学においても、ホットスポットの除染など学生の生活に配慮して様々な対策が取られています。

この大変な困難をしのぎ、現状に屈せず、学生たちの生き抜く力が育まれるよう祈りつつ、今後も支援していきたいと存じます。どうぞ皆様、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ごあいさつ

震災から数ヶ月が経過し、例年通りのキャンパス風景を回復しつつあるように思われます。理工学類では、後援会、同窓会、教員親睦会のご協力を得て、理工学類の約90名の被災学生に対して義援金の支給を行いました。後援会の皆様からのご支援に感謝致します。

保護者の皆様からキャンパス内での放射線を心配するご意見が寄せられております。大学では、「放射線マニュアル」の配布や「放射線説明会」の開催等、学生諸君を対象とした放射線に関する啓蒙活動を行ってきました。理工学類としては、福島の放射線問題を「科学とその限界」について学生諸君が理解を深めるまたとない機会として捉え、偏らない啓蒙活動を行って行きたいと考えております。現在のキャンパス内の放射線量の測定結果や放射能除染の状況については同封の「福島大学放射線に関する取り組み」をご覧ください。

地震発生直後、理工学類教員有志による「福島大学

## 福島大学共生システム理工学類長 石原 正



放射線計測チーム」が結成され、いち早く県内の放射線量を測定・公表する等多方面の活動を行い、その活動は県内外のみならず、国際的にも高く評価されております。また、福島大学では、福島県の復興を支援することが地方国立大学としての責務であると認識し、学内組織として「うつくしまふくしま未来支援センター」を設置しました。理工学類は「環境汚染改善分野」、「新エネルギー分野」等における貢献を期待されております。詳細については同封の「福島大学復興に向けた取り組み」をご覧ください。

福島大学は震災の直接的被害は軽微なものでしたが、放射線の「風評被害」が危惧されております。この風評被害を排し、大震災からの復興に貢献する人材の育成に注力したいと考えております。後援会の皆様から更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 一年生紹介

### Aグループ

グループアドバイザー  
高原 円

Aグループは、いずれも活発で個性的な学生さんたちで、とてもしっかりしていて、驚かされることが多いです。最初は皆ひとしく緊張している様子でしたが、次第に学生生活に慣れてきて、余裕が出てきたのではないのでしょうか。今年、福島大学でこのメンバーと巡り会ったことを、一つの大切な機会として、更に躍進してもらいたいものです。

前期はそれぞれの興味で発表してもらいましたが、後期はグループでテーマを定め、調べて発表する作業です。いろいろなことに興味と関心をもって、成長していくのが楽しみです。



### Bグループ

グループアドバイザー  
石田 葉月

石田が担当するクラスの教養演習Iでは、東日本大震災にともなう原発事故について考えました。学生を三つのグループに分け、どのグループも必ず、低線量被ばくの影響について客観的立場と慎重な立場の両方を一回ずつ演じました。グループ間の討論を通じ、低線量被ばくがもたらし得る健康被害については、専門家のあいだでも見解が別れていることがわかりました。

福島市のようなレベルの低線量被ばくが将来どのような影響をもたらすのか不確実ですが、私たちはこのような不確実性のなかで生活していかなければならず、そのことの意味を学生とともに考えました。



### Cグループ

グループアドバイザー  
川崎 興太

Cグループは、男性17名、女性4名で、合計21名からなります。出身地は、福島県が14名、宮城県が3名、栃木県が2名、茨城県と静岡県が各1名。

前期の教養演習では、ともかくお互いのことをよく知ろうということで、4つの小グループに分かれて自由にテーマを設定し、成果を発表しました。メンバーチェンジをしながら、これを2回。テーマはなぜか、戦国武将、生協食堂、お酒、宇宙人などとなりましたが、どのグループも、よく話し合いながら調べたことが感じられました。

後期の教養演習では、こうしたグループ活動を発展させていきたいと考えていますが、何でもよいので、生きていくうえで大切なことを一つでもお互いから学び合える場になるといいなと思っています。



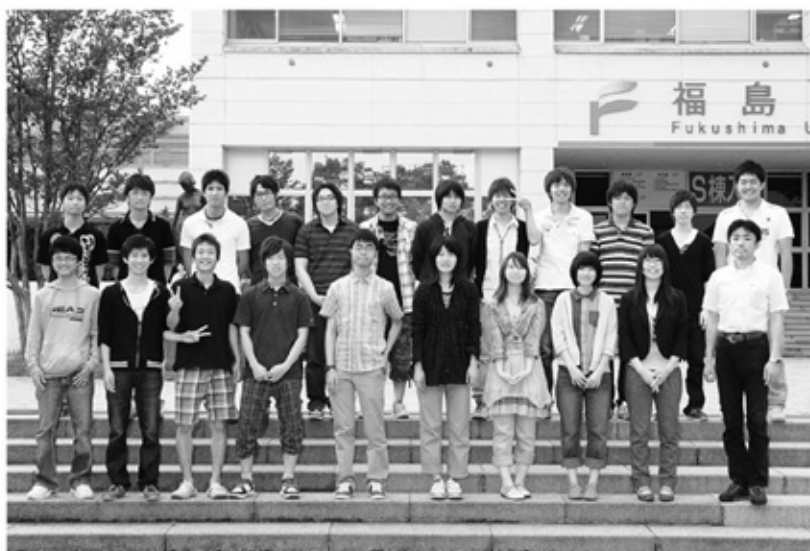
## 一年生紹介

## Dグループ

グループアドバイザー  
中村 勝一

Dグループは、福島県内出身者に加え、茨城・栃木・山形・宮城・新潟の各県さらには海外出身者をも含む個性豊かなメンバーが揃っています。震災直後のスタートでしたが、幸い比較的落ち着いて過ごしている様子で、頼もしく感じています。

前期はフリーディスカッションや簡単な調査等を通して、目指す専門分野や職業について各自の考えを膨らませてきました。多少の失敗を恐れず意欲的に行動し、この大変な時期の苦勞も含めて、将来財産となるような充実した大学時代を過ごして欲しいと祈っております。



## Eグループ

グループアドバイザー  
島田 邦夫

Eグループは、県内出身者12名を含み、北は秋田から南は沖縄まで、さらにマレーシアからの留学生を含めた計21名で構成されています。最初の顔合わせの時から皆和んだ雰囲気、未だ恐れも何も知らず初々しいというのが印象的でした。クラスを通じて知り合った仲間や友達を大切にしながら、勉強や遊びなど何にでも夢中になって取り組んで、思い出に残る充実した4年間の大学生活が送れるように望んでおります。



## Fグループ

グループアドバイザー  
黒沢 高秀

最初おとなしく思えて、多少心配しましたが、無用でした。前期の教養演習では学生生活関係で各自興味があること(就活、資格、教職、各専攻)について班を作って調べ、発表しました。今時の学生らしく、そつなく情報を集め、大人顔負けのプレゼンテーション(パワーポイントやイラスト入りの資料など)を作って、物怖じすることなく発表していました。大学生活の4年間でどれだけ成長するか、楽しみです。



## 一年生紹介

### Gグループ

グループアドバイザー  
二見 亮弘

Gグループは18名からなります。教養演習Iでは、無関心であってほしくない放射線や原発事故などについての調査とまとめ、発表・討論を6班に分かれて行いました。1回目の発表ではうまく答えられなかった質問に対応した修正を盛り込んで2回目の発表会を行い、それなりの完成度を得ました。

後期には、将来自分が配属を希望する専攻や研究室を意識した個人テーマを設定して調査や発表・討論などを行い、さらに楽しく活発な議論をめざします。



### Hグループ

グループアドバイザー  
中村 和正

Hグループは男子16名、女子5名(福島県内出身者8名、県外出身者12名、留学生1名)の計21名で構成されています。入学式当日は、初対面であり、皆さん遠慮しているところが多々見られましたが、演習の回が進むごとに徐々に活気あふれるクラスとなっています。未曾有の震災と原発事故の中で、入学を決断して頂いたことに関して、非常に感謝しております。このような逆境の中から大学生として心身ともに逞しく成長できるように活動していきたいと考えております。



### Iグループ

グループアドバイザー  
後藤 忍

大切なご子息を、従来の一般公衆の線量限度を満たしていないキャンパスにお迎えせざるを得ない状況であることを、保護者の皆さまにお詫びしたいと存じます。

原発の問題と真剣に向き合い、将来も社会を変えていくことのできる人材となってもらうため、Iグループでは原発とその影響に関するテーマに取り組んでいます。前期は、放射線被ばくに関する国内外のレポート等を読み込んだり、線量計を使ってキャンパス内の実測をしたりしました。後期は、さらなる調査や議論を行って、将来のエネルギー利用について政策提言したいと考えています。



## 平成23年度 共生システム理工学類 後援会会計決算報告書

収入内訳

(単位円)

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	7,045,979	7,045,979	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4千円×6年)等を含む
会費	3,600,000	3,480,000	△120,000	H22年度20,000円新入生171人+10,000円×編入生6人
雑収入	0	1,433	1,433	利息
収入合計	10,645,979	10,527,412	△118,567	

支出内訳

(単位円)

科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
事務局長運営費				
総会費	5,000	0	5,000	資料印刷費等
役員会費	130,000	5,000	125,000	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与:50,000/月
事務費	45,000	36,498	8,502	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	641,498	138,502	
事業費				
学生活動助成費	600,000	832,110	△232,110	学生の課外活動支援費、表彰制度
就職指導対策費	300,000	142,333	157,667	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	289,675	10,325	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	720,000	504,000	216,000	アドバイザーグループ助成 研究室配属学生補助:1,000*180*4
学類運営助成費	100,000	155,030	△55,030	理工系学部長会費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	800,000	664,185	135,815	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000*100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成:30万
小計	2,820,000	2,587,333	232,667	
予備費	0	0	0	学籍異動に伴う返金、祝い金
支出合計	3,600,000	3,228,831		

収入合計-支出合計= 7,298,581 円は平成23年度へ繰越

平成23年3月31日報告

上記のとおり報告いたします。 共生システム理工学類後援会 会計担当

田井昌子

平成22年4月1日から平成23年3月31日までの会計について、会則に基づき監査の結果、その処理が正確であり適切であることを報告します。

共生システム理工学類後援会 監査役

菅野毅

## 平成23年度 共生システム理工学類 後援会会計予算

収入内訳

(単位円)

科目	本年度予算額	H22年度予算額	比較増減額	備考
繰越金	7,298,581	7,045,979	252,602	
会費	3,600,000	3,600,000	0	5,000*180名*4学年
雑収入	0	0	0	預金利息等
収入合計	10,898,581	10,645,979	252,602	

支出内訳

(単位円)

科目	本年度予算額	H22年度予算額	比較増減額	備考
事務局長運営費				
総会費	5,000	5,000	0	資料印刷費等
役員会費	130,000	130,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与:50,000/月
事務費	45,000	45,000	0	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	780,000	0	
事業費				
学生活動助成費	600,000	600,000	0	学生の課外活動支援費、表彰制度:5,000円*45人
就職指導対策費	300,000	300,000	0	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	300,000	300,000	0	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	720,000	720,000	0	教養演習グループ・研究室配属学生助成:1,000円*180名*4年
学類運営助成費	200,000	100,000	100,000	理工系学部長会費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	700,000	800,000	△100,000	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000円*150人、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成
小計	2,820,000	2,820,000	0	
予備費(繰越金)	7,298,581			学籍異動にともなう返金 学生活動助成:36万円*(1年+2年+3年) 福利厚生費(18万円*6年) 通信費(3万4千円*6年) 被災学生支援費:130万円 等を含む
合計	10,898,581			

## 平成23年度 共生システム理工学類 後援会役員名簿

【役員】

会長 齊藤 修  
副会長 小野 寺京子  
副会長 押切 竜一郎  
監査 菅野 浩子  
理事 小笠原 仁海

理事 丹治 峯人  
理事 加藤 孝裕  
理事 神野 幹彦  
理事 小泉 昌子  
理事 高橋 清典

## 学生生活支援便り

共生システム理工学類学生生活委員会

### 【学類学生の動向について】

今年度は震災の影響を受け、特に前期に実施される予定だった学内行事の多くが日程の変更や中止を余儀なくされています。

そのような状況の中で、学生と教員が集い、互いの交流を深めることを目的とした学生交流会という催しが6月29日に開催されました。立食形式の集会で、片手にサンドイッチ、

片手に飲み物というスタイルで、友人同士、あるいは学生と教員が大いに語り合い、またゲームなどの企画も楽しみました。このような催しを企画してくれているのは、理工学類の学生自治会の諸君です。いろいろとたいへんな時期ではありますが、それでも限られた自分たちの学生時代の時間を有意義なものにするため、奮闘してくれました。



先輩たちと



栄養補給?



福大クイズ大会

また、交流会では、昨年度の学業成績優秀者と学類長賞の表彰式が行われました。学類の中で成績上位者に対して、学類長より賞状と図書カードが贈られました。

交流会や学生の表彰には、後援会から多大なご支援をいただいております。心より御礼申し上げます。



## 平成22年度成績優秀者表彰

(卒業生である4年生には、表彰状と副賞を郵送でお渡ししています。)

## 1年

八巻 志帆  
小磯 将広  
佐藤 優輝  
野田真優子  
吉家 芳明  
和知 真子  
橋本 光広  
神野 成美  
新巻 有香  
古川 健人  
堀越 健太  
三浦 望  
芳賀健大朗  
石澤 直樹  
藤澤 昭仁  
金子 翔平

## 2年

星 貴文  
吉成 正顕  
金島 優  
塩谷 昌之  
赤沼 勇人  
赤城 優香  
村上 真哉  
筋内 愛咲  
酒井 貴紘  
龍崎 尚真  
佐藤由佳莉  
峯田 真吾  
本柳 健  
鳥居 洋介  
佐藤 風花  
杉山 拓也

## 3年

植木 智也  
河野 哲成  
遠藤 美佳  
佐久間健太  
池田 滉二  
斉藤こずえ  
高橋 和也  
佐藤 貞郷  
向井 一輝  
三浦 裕文  
藤枝 涼  
加藤 宗幸  
齋藤 春香  
渡邊 麻子  
藤栄 峻

## 4年

芳賀 友洋  
間澤慎太郎  
高橋 純一  
築場真衣子  
讓矢かずみ  
村上 俊政  
八代 尚子  
小野木徹也  
及川 貴久  
富田 恵  
菅野 望美  
八木真梨恵  
滝沢 桃花  
若曾根徹哉  
阿部 勝人  
中野渡 愛

## 平成22年度学類長賞表彰

受賞団体 LED照明プロジェクト

喜藤 広成、鈴木隆太郎、森田なつき



## 教員に相談を

学生生活の中で学生諸君はさまざまな問題に直面するものです。進学、就職、授業やアルバイト、人間関係など。今年は震災や原発問題も学生たちの生活や心に影響を与えているだろうと思います。友人たちで悩みを打ち明けあい、相談することもとても重要なこと

ですが、もし、本当に困ったことがあったならば、教員にも一言、相談してください。グループアドバイザーや指導教員がもっとも身近な教員です。遠慮することは、ありません。教員も、学生諸君が相談に来てくれることを待っています。

## 平成22年度 卒業生・修了生の進路状況について

共生システム理工学類就職支援委員会

長引く不況の中で、実質初めて大学院の修了生を送り出しました。また、3月の震災は就職活動にも大きな影響を及ぼしています。

### 1.22年度の進路状況

まず、22年度の進路状況を報告させていただきます。卒業生の進路・就職状況は表1の通りです。民間企業の内訳は、

表1 卒業生の進路・就職状況（単位:人）

		計	男子	女子
卒業予定者数		199	152	47
大学院進学	福島大学	36	33	3
	他大学	4	0	4
専門学校		1	0	1
就職希望者数		136	99	37
就職内定者数		118	89	29
(内訳)				
民間企業		79	57	22
公務員	国家	5	4	1
	地方	23	20	3
教員		6	4	2
期限付き教員		2	1	1
自営業		3	3	0

製造業11(4)、情報通信業22(6)、サービス業15(5)、卸・小売業8(2)、運輸業6(2)、金融業7(0)(0は女子で内数)などとなっています。就職率が86.8%、進路決定率が89.8%と前年度の97%を大きく下回る厳しい結果となりました。

一方、大学院の修了生の進路・就職状況は表2の通りで、こちら(留学生を除いた)就職率が88.9%、進路決定率も91%にとどまる結果となりました。

3月11日の震災で、就職活動がストップしたことや、福島県の教員人事が延期になっていることなどが、影響したものと思われます。地方公務員志向がさらに強まり、公務員浪人が増えていることも挙げられます。震災による内定取り消し等については、理工学類は幸いにもありませんでした。

### 2.今年度の就職活動状況

震災の影響で、企業も採用を見合わせる所や採用活動

を一時延期する所も多くありました。このため、就職活動は全体的に1カ月以上遅れて進行しています。例年、既に第1回目の内定状況の調査を済ませているところですが、今年度はこれから調査を行う予定です。教員採用も、福島県が来年度の小中学校の採用を見送るなど、昨年度以上に厳しい状況が予想されます。

表2 修了生の進路・就職状況（単位:人）

	男子	女子	計	留学生		
				男子	女子	計
修了者数	38	13	51	2	4	6
大学院(博士)	6	1	7	0	2	2
有職者	4	1	5	1	0	1
報告なし	1	0	1	1	0	1
就職希望者数	27	11	38	0	2	2
就職者数と内訳						
建設業	1	0	1	0	1	1
製造業	13	3	16	0	0	0
金融業	2	0	2	0	0	0
情報通信	5	0	5	0	0	0
医療保健衛生	0	1	1	0	0	0
サービス業	3	2	5	0	0	0
地方公務員	0	1	1	0	0	0
計	24	7	31	0	1	1
未定	7	5	12	1	1	2

### 3.就職支援の取り組み

このような状況の中、大学としても出来得る限りの支援を行いたいと考え、例年の活動に加えて、以下のような支援策を実施しています。

- 就職活動に関わる交通費の支援
- 東京・大阪への就活バスツアーの実施
- 就職が決まらないまま卒業した学生への情報提供と継続的な支援
- 就職関連のホームページ「就職の広場」の充実と携帯電話からの利用  
(<http://syushoku.adb.fukushima-u.ac.jp/>)
- キャリアカウンセリングの時間の延長
- 福島県内企業向けガイダンスの強化

また、理工学研究科では、面接時などに特に専門的で高度な対応が求められる院生の就職活動に対して、企業での経験が豊富な実践教育推進センターの特任の先生に、個別の就職相談や指導をしていただいております。

厳しい就職戦線ですが、大学の提供する支援策等を積極的に活用して、この難局を乗り切ってほしいと願っています。



## 「親のための就職セミナー」の開催について

(主催) 福島大学就職支援委員会

(後援) 福島大学人間発達文化学類後援会、福島大学行政政策学類後援会  
福島大学経済経営学類後援会、福島大学共生システム理工学類後援会

### テーマ:「大きく変わるか?大学生の就職事情」

＝学生の“就活”はいまどのように変わろうとしているのか＝

東日本大震災は、地域の産業や経済、子どもたちの教育、そして暮らしにかかわる行政などに大きな影響をあたえています。また、このことは日本国内はもとより国際的な動きにもつながっています。これからの大学生の就職事情はどうなるのでしょうか。

以前から問題となっていた就職・採用活動の「早期化・長期化」の問題も文部科学省や厚生労働省などさまざまな論議が重ねられています。経済界からもその是正について、いろいろな意見が出され、大学関係団体との協議も進んでいます。受験勉強の延長のように大学の就職予備校化などによる大学教育の崩壊さえも危惧されています。

大学における人材開発・職業教育は、大学教育そのものの課題でもあります。このような状況で、いまどきの学生の就活模様と本学の就職支援やキャリア教育の取り組みについて紹介させていただきます。これを機会にこれからの福島大学の取り組みについて皆様とご一緒に考えることができれば幸いです。

\*\*\*\*\*  
参加を希望される方は、参加申込書にご記入の上、FAX・郵送・メール等で、10月14日(金)まで就職支援室あてお送りくださいますようお願いいたします。お送り頂いた参加申込書により、そのままセミナーにご参加いただけます。そのため、こちらからはお申込みの結果についてご連絡はいたしませんので悪しからずご了承ください。

なお、当日は金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されております。併せて是非ご覧いただけますようご案内いたします。

### 記

1. 開催日時 平成23年10月29日(土) 13時～14時30分[参加無料]
2. 開催場所 福島大学共通講義棟 L-4教室 (福島市金谷川1番地)
3. 参加対象 福島大学の在学生の保護者の皆様
4. 開催内容 ①挨拶 清水 修二 副学長  
②講演 五十嵐 敦 キャリア開発教育研究部門 部門長 教授  
③質疑応答

#### [参考]

《五十嵐敦氏のプロフィール》

氏名:五十嵐 敦 (1957年福島県喜多方市生まれ)

所属:日本キャリア教育学会(編集委員)、産業カウンセリング学会(理事)、産業ストレス学会等に所属。主に企業の人材育成や職場適応問題に取り組んでいる。労働者健康福祉機構の産業保健推進センター・メンタルヘルス対策支援センターで支援活動を行っている。平成22年度から文部科学省就職問題懇談会委員。

【申込先】福島大学学生課就職支援室長 南 俊二(Minami Shunji)  
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地  
TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355  
E-MAIL:shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp

## 4月6日 H23年度後援会総会および懇談会



後援会総会



人間支援システム専攻紹介



産業システム工学専攻紹介



環境マネジメントシステム専攻紹介

## 8月7日 オープンキャンパス



理工学類生によるガイドツアー



学類紹介の部屋にて

## 8月9日 福島市製造業企業訪問会



福大祭へ  
お越してください!

## 第47回 福大祭 本祭 (一般公開)

●場所: 福島大学 ●日時: 平成23年10月29日(土)~30日(日)  
ステージ発表・模擬店・子ども向け企画・学外展示・お笑いステージなどを企画しています。

ご意見・ご要望は下記 共生システム理工学類後援会 まで

事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学理工学群共生システム理工学類内 TEL&FAX 024-548-8176

学類のHPで様々な教育・研究活動をご覧ください。 <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>